


ふりがな 氏名	くにもと りかこ	都道府県	広島県	
	國本 莉花子			
所属/肩書	福山市立樹徳小学校／教諭			
私の ESD活動	①伝統文化教育の推進 ②ESD 日米教員交流プログラムへの参加 ③日米の小学生間で、国語科の単元での交流			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

①伝統文化教育の推進

2010年、2011年に、本校の伝統文化教育研究に携わった。福山市の伝統工業品である琴のパンフレットづくりや、能や墨絵の体験的学習を行った。子どもたちが「受け継がれてきたもの」「失われつつあるもの」を発見し、体験を通してそれぞれの知を獲得できるよう努めた。琴パンフレットづくりでは、職人の方を訪ねてインタビューすることによって、およそ400年にもわたる伝統工業を受け継いできた方の思いに触れさせることができた。「まずは自国の文化のよさに気付かせなければ、他国の文化を尊重する態度を育めない」と感じた。

②ESD 日米教員交流プログラムへの参加

今年の4～6月にフルブライトジャパン主催 ESD 日米教員交流プログラムに参加した。アメリカを訪れ ESD 教育について学び、ESD 教育に携わる日米の先生方と交流するなど貴重な経験をした。このプログラムに参加することによって、日本に根付く「共生」の考えを改めて認識し、ESD の礎となる考え方であるという思いをもった。また、この経験を通して、私のようにプログラムに参加した教員が ESD や共生の心を意識していただくだけではなく、全国どこで学んでも ESD につながる教育が受けられるような実践研究を重ねていかなければならないのではないかという意識が芽生えた。

③アメリカの小学2年生と国語科「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を通じた交流

現在担任している第1学年の学級の児童が、アメリカの小学2年生と国語科「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の単元を通して交流している。児童自身が「ずうっと大好きだよ。」と伝えたい相手は誰か、それはなぜか、ということを書き表し、互いに発表し合う。総合的な学習の時間など地域の特色が活かされる学習で異文化理解教育を行うのではなく、教科教育を通じた異文化理解教育を行おうと試みている。

・ESD 日米教員交流プログラム：<http://www.fulbright.jp/esd/esd10.html>

・福山市立樹徳小学校：<http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-jutoku/>

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

自分のコミュニティの ESD 発展だけを考えるのではなく、今を生きる子ども達がどの学校で学んでも ESD につながる教育が受けられるような情報の拡散、共有を目指す。

- ①ローカルな文化のよさを再発見(再認識)する。
 - ②ITの活用や、様々な場へ参加することを通して、グローバルなネットワークを構築する。
 - ③国内、国外の異文化をもつ子ども同士をつなぎ、交流が深められるような学習活動を設定する。
 - ④どのような学習活動を通して、ESD を実践しながら共生の心を育てているのか情報交換をしたり、提案したりしていく。
- その過程で、ESD の3つの視点「経済」「環境」「社会」の中心に「共生」のキーワードを位置づけて ESD を推進していくことについて協議し、共生の心をもった子ども達を育てる。